

令和3年度 金沢中部地区春期推進連絡会

1 日時	令和3年7月5日(月)	18:00~20:10	
2 場所	いきいきセンター2階		
3 参加者	(地域側)自治会等地域団体関係	30名	
	(支援チーム、その他行政側)		
	区役所	7名	
	区社会福祉協議会	3名	
	地域ケアプラザ	4名	計 44名

4 意見交換要旨

(1) 開会あいさつ

金沢中部地区連合町内会・金沢中部地区社会福祉協議会会長

- ・ コロナ禍で各自治会・町内会や地区社協の各行事は制限、自粛してきた。
- ・ 第3期地福計画については、「出会い・ふれあい・支えあい・安全安心に暮らせるまち」をテーマに4部会を中心に進めてもらった。
- ・ 振り返りシートを作成していく中で、第3期を振り返り、秋までに策定予定の第4期に活かしていきたい。
- ・ 本日は、感染拡大防止策を講じながら短時間で効率よく進めていきたいのでご協力をいただきたい。

(2) 副区長あいさつ 金沢副区長

- ・ 中部地区の活動について、事前に確認させていただいた。この地区は、人と人のつながりを大切にしながら取組を進めていただいていると感じる。
- ・ コロナ禍で地域活動が難しい中、様々な工夫をしてもらいながら、6月には「ふれカツ」、「フリマ」など、取組を実施していただいていることに感謝申し上げたい。
- ・ まだコロナ禍の影響が続くかと思うが、その中でも、地域との課題共有や意思疎通をしながら地区支援をしていきたい。本日は皆様の地域活動を聞かせていただきながら自分も勉強していきたいと思っているのでよろしくお願いします。

- #### (3) 出席者紹介
- ・ 地域支援チーム
 - ・ 地域は後程の各発表時に併せて自己紹介

(4) 区役所より

- ・ 第4期金沢区地域福祉保健計画の骨子案について
- ・ 令和3年度事業や助成制度の概要

(5) 第3期地区別計画振り返り及びグループ発表(地区社協事務局長・地域参加者)

◎ 振り返り1(地区社協事務局長) ➡ 考え方の説明

振り返りについて、本来はグループ討議の時間を設けるが、コロナ禍であるため各部会の会員に向けてアンケートを実施した。その内容を昨年10月の秋期推進連絡会で周知・検討し、今年3月の役員会で提案・修正し、振り返りシートを作成した。その中の4期計画からピックアップして今年度の総会資料の事業計画へ反映した。

◎ 振り返り2（高齢者部会長）

コロナ前は年間30くらいのサロンを開いていたが、昨年は減少。マンネリ化しないように各町内会の役員が工夫して取り組んだ。特に健康に関する講演会や体操については大勢の参加があった。健康推進に関心がある。課題は担い手の高齢化と参加者が女性ばかりという点。ふれあい訪問等は、定期的を実施している。災害時だけでなく日常から助け合いができるように情報交換をしている。個人情報に配慮して連携を取っていききたい。コロナ禍の中でも人のつながりはあった方が良く感じた。

◎ 振り返り3（子育て支援部会長）

コロナ禍で片吹以外は開催できなかった。ホームページを立ち上げ情報共有・提供している。無料で簡単に利用できる形をとっているため、誰でも更新等ができ次につながるツールを用意できたのが成果だった。課題が形となって見えてきた。チャイママがなんでできたかという点、小・中学校とタイアップしたから。保育園とタイアップした場合、保育園にできないと言われてしまうとできなくなってしまう。そこをなんとかしたい。また、保育園に協力を得ている以上、遠慮が出てしまう。近所のお母さんが「あったらいいな」をつなげ、育てあげてきた1年だった。

◎ 振り返り4（広報部会長）

3回広報紙の発行を予定していたが、6月のふれあいの和ニュースは休刊した。10月と2月は発行した。できるだけ活字ではなく写真を多めにして読むというより、見てほしいというものにした。認知度が低いと感じている。役員会等でPRしてほしい。

◎ 振り返り5（異世代交流部会長）

青少年指導委員、スポーツ推進委員、子ども会役員で構成されている。多世代向けに活動しているので、みんなが楽しめる行事を考えている。春はボーリング。夏は紙ヒコーキ行事。大人から子供への継承。秋はみかん狩り。非常に好評。子どもたちのふれあいの場にもなっている。今後もこういった行事を行っていききたい。課題は、もっと楽しいものを考え、参加者が多くなるようにしていきたい。コロナ禍であることも考慮して工夫して企画していきたい。

◎ 振り返り6（自治会町内会長）

祭礼・納涼祭・交流会等については、多世代で交流できる場だが、コロナ禍でほとんどできなかった。防災については、地域の実情に合わせて自治会町内会ごとに訓練等している。近隣住民による登下校の見守り活動についても、昨今問題視されている通学路についても注意を払いながら、自主的に実施している。課題は、地域の住民の方にいかに参加していただけるか。きっかけづくりをしないといけないと感じている。社協と自治会町内会が連携することを常に意識していくことが大事だと考えている。

◎ 振り返り7（地区社協会計） ➡ 第3期の反省と第4期に取り組みたいこと

特に力を入れたのは交流会やサロンの開催、防災見守り活動。地域の中の変化としては新しい行事も定着してきていること。課題としては、担い手の高齢化による負担感がましていること。第4期で取り組みたいことは、力を入れたいものとして、友好的交流関係を軸に地域での様々な福祉・子育て・趣味等の活動について情報共有して受け入れ支援していきたい。第3期でやりたかったができなかった取組は、子育て支援活動の広域での実施、各世代間交流の場の提供。地域活動のすそ野の拡大。誰でも参加できるようにしたい。

<グループ発表>（地区社協事務局長） ➡ グループではない

このあとの10月の秋期地区推進連絡会までの3か月間で第4期を考えていく。今日は提案する日。理想の社協を考えて、それを集めて第4期に繋げていきたい。基本理念である「誰もが安心して健やかに住み続けられる支えあいのまちづくり」と中部地区のキャッチフレーズである「出会い・ふれあい・支えあい～安心・安全に暮らせるまち～」は変更しない。今日は地区社協としてできること、みなさんの想いを集めたいと思っている。主役は地域の住民のみなさん。伝統ある地区の中で、中部地区としての強み、弱

みも含めて考えてほしい。

◎アンケートの結果 ➡ 昨秋実施の《アンケート》ではない 質問票から

<役員になったきっかけ>

- ・ 順番やなりゆきで役員になった。
- ・ 保健活動推進委員や民生委員等になり地区社協に入ったこと。
- ・ ボランティアと役員を勘違いして引受けてしまい、つらいこともあったが、温かく受け入れてもらった。
- ・ 町内会長や役員からの要請。

<やってみてよかったこと>

- ・ 他地域の様子や社協のことがわかり勉強になる。
- ・ 多世代の色々な人と交流ができ、勉強にもなり、元気をもらえる。
- ・ 自分を知ることができた。自分が地域に対してどのように考えているかがわかった。
- ・ 講座があるので自分が知らなかった健康や病気のことが知れた。
- ・ 同志のような関係が多世代で持て、絆ができた。
- ・ 子育てのお手伝いができていることが楽しい。
- ・ 活動や地域のことを理解することができた。
- ・ 活動していて楽しい。
- ・ 一人で子育てしているのではないということが実感でき、繋がりができた。
- ・ 地域の子どもたちとの関わりができた。

<つらかったこと>

- ・ 今のところない。
- ・ あまり理解できていなかったこともあり不安だった。
- ・ みんなのためにやろうとしていることが、地域に受け入れられなかったこと。
- ・ 発言や会議の出席。
- ・ イベント等で参加者がいなくなったり、少なかったりすると寂しい。
- ・ コロナ禍で活動できなく、地域から理解してもらえないこと。実施しても参加者がいるのか不安。協力者と参加者の確保。
- ・ 仕事の都合で行事に参加できないこと。仕事とのバランス。
- ・ 自分の参加できる範囲で参加できているのであまりない。
- ・ 毎日、社協のことで頭がいっぱいになっている。
- ・ 自分が役員をやっているのか自責の念がある。
- ・ いまだに社協を理解しきれていないこと。

<自分の活動・役目について>

- ・ この町に住んでよかったと思われる活動をしたい。今までお世話になったのでこれからは自分が貢献したい。
- ・ コミュニケーションを作ること。
- ・ ボランティアは仕事ではないので、できる人ができる時にできることをする。「ふらっと」に参加してくれたお母さんが、引っ越していくことが残念に思ってもらえたことがあり、今後もそう思ってもらえるようにしていきたい。
- ・ 「ふらっと」に込めた願いは、「ふら～っと来てください」ということや「フラット」に分け隔てなくということ。楽しいと思ったら誰でも来てほしい。誰でも受け入れ情報発信の場としても門戸を広げていきたい。

- ・ 健康のお手伝いをする活動。
- ・ 社協のことをもっと知ってもらおう。もっと活動を認知してもらおう必要がある。
- ・ 自分の持っている資格を活かしたい。
- ・ 行事を通して地域のことを理解していく。
- ・ 会計としてみなさんの活動に沿っていきたい。
- ・ 過ちを犯してしまった子どもたちが地域の祭りに参加することや、なんとなく地域の温かさに触れてもらう機会を作りたい。
- ・ 社協の役割等をPRすること。
- ・ コロナ禍でも工夫して少しずつ活動していく。
- ・ 食品ロスをなくす活動をしていく。

<地域住民のために何ができるか>

- ・ 小さい地区だが、住民の顔がわかるようにしていきたい。
- ・ すずらん通りの職人さんたちと子どもたちのふれあいの場を設けたい。
- ・ 民生委員なので町内のわからないことがあればサポートしていきたい。
- ・ 孫が八景小学校に通学している。通学路の途中にゴミ捨て場がある。そこを通るのを嫌がる。どこに伝えても改善されない。こういうことを拾い上げて地域で解決していきたい。
- ・ 地域の方に社協についてアンケートを取ってみたい。
- ・ 子ども会で活動している子育て中のお父さん・お母さんは仕事があるので、どうしても前例踏襲で活動せざるを得ない。他の町内会の活動をこういった場でいろんな情報を得て、それを活動に活かしていきたい。
- ・ コロナ禍でも工夫をして活動していきたい。
- ・ 昨年は何も活動できず、地域の方に迷惑をかけた。今年は活動できるように模索していく。
- ・ 海や山を感じて季節行事を子どもたちと実施していきたい。
- ・ 1人でも多くの方と接して、活動の理解を深めてもらいたい。
- ・ 地域の方々の息抜きの時間やほっとできる場を作っていきたい。
- ・ 誰もが参加でき、発言できる間口の広い活動をしていきたい。
- ・ 顔の見える関係づくりをしていきたい。
- ・ 子どもたちを盛り上げたい。ベランダラジオ体操や七夕イベント等をやってきた。防災関係もハザードマップを配付したり、イベントを行ってきた。
- ・ 道路が狭くて抜道がない。宅配便が増えてきた昨今、道路事情が混乱している。これをどうにかしたい。
- ・ 少子高齢化の中、子どもに対するものだけでなく、4期計画には高齢者への取組もしていく。
- ・ ぼたんちゃんホルダーのような施策が必要。
- ・ 住居表示が古い。番地が飛んでいたりするので住居表示を整理してほしい。

◎地域支援チームから

- ・ 中部地区は、地域のみなさんが積極的に頑張っている地域だと感じている。
- ・ 第一印象に利便性良さと地域への愛を感じた。良き伝統を継承していきたい。
- ・ ぼたんちゃんホルダーを増やしていきたい。
- ・ 坂道の多い地形を逆手にとって健康づくりに活かしていきたい。
- ・ コロナ禍で例年通りの活動ができない中で、求められていることを検討していきたい。
- ・ 地域のために何ができるかを考えて活動していることに感銘を受けた。
- ・ つながりを大事にしている地区だと感じているので区社協としても応援していきたい。
- ・ 地域の中に集まる場ができると人がつながっていくことを実感している。これからも新しいことがで

きればと思っている。

- 地域の方への想いがすごく参考になっている。
- 活動を楽しんでいるのを感じることができた。後継者づくりにも有効であると感じているのでこれからも応援していきたい。
- できないから仕方ないではなくて、地域のみなさんの知恵と工夫で乗り切ってきているのを感じている。微力ながらこれからも力添えしていきたい。
- 本日も大勢の人に集まっていただいた。これがまさに中部の強みだと感じた。
- 何ができるかを考えて活動している地域だと感じている。
- これから中部地区の弱み・強みを勉強していきたい。本日、大勢の人が集まっていただけたことは、間違いなく強みの一つであると感じた。今後も情報共有・連携していきたいと考えている。

(6) 閉会あいさつ 金沢中部地区連合町内会・金沢中部地区社会福祉協議会副会長

- 2点お願いがある。まずは災害対策について、日頃から災害に対する注意を怠らないようお願いしたい。
- 2点目は、コロナについて。いまだに収束の兆しが無い。ワクチンも進んではきているが、感染防止対策に注意して乗り切っていってほしい。